

「音読で感動を伝えよう！～斎藤隆介の世界～」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと。

(1) 単元観

本単元では、単元のゴールを「音読で物語の感動を伝えよう」と設定することで、叙述を基に場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化を読み取り、読み取ったことを音読で表現する力を育てることをねらいとしている。

本教材は、小見出しのついた5つの場面で構成されている。地の文は語り手による民話調の言葉であたたかく表現されており、各場面は、小見出しと美しい挿絵が入っている。夜のモチモチの木や、一人で外に出ることを怖がっていた臆病な豆太が、「じさま」のことを心から大切に思う気持ちから勇気を出す姿を通して、豆太の人物像について考えさせたい。これまで臆病だった豆太の勇気ある行動とは対照的に、再び「臆病な豆太」に戻ってしまうという作品の構成や、「豊かな自然とじさまの優しさに包まれて育った豆太は、いざという時には勇気が行動としてあらわれる」ことについてもとらえさせたい。また、斎藤隆介作品を読むことによって、「人間は誰でも、誰かを心から思う気持ちがあれば、勇気を出すことができる」という作品の主題にも迫らせたい。物語を読み、中心人物の変容を考える中で、作品の価値や本質に迫ろうとする力を他教材の読み取りでも生かしていきたいと思い本単元を設定した。

(2) 児童観

国語科の実態

3年生になり読書の幅も広がり、推薦指定図書を中心に意欲的に読書をする姿が見られる。「本を読むことは好きですか。」との質問に対して、100%の児童が好きと回答している。

これまでに児童は、6月教材「ゆうすげ村の小さな旅館」を通して、しかけのある物語をシリーズで読み広げた経験をもっている。4月教材「すいせんのラップ」では、登場人物ごとに音読を工夫するために叙述を基に想像しながら読んでいった。しかし、作品の主題に迫るような読み方や一人の人物の心情の変化や主題を音読で表現したことはなく、音読による表現が十分であるとは言えない。

資質・能力に関する実態

思考力については、自分の考えをもち伝えることはできるが、グループ活動後に自分の考えを深められる児童は少ない。自分の考えと友達のことを比較して自分の考えを振り返ることにより、さらに自分の思考を深められるような学習活動を仕組む必要がある。

表現力については、「音読をすることは好きですか。」という質問に18名の児童が肯定的回答をしていることから、多くの児童が好んで音読をしていることが分かる。その反面、場面の様子を音読で表現することの難しさを感じている児童も多く、音読による表現力は十分であるとは言えない。

(3) 指導観

「音読で感動を伝えよう」という言語活動を設定する。自分が選んだ物語について中心人物の人物像や心情、心情の変化、場面の様子を音読で表現する活動を通して、登場人物の心情の変化や場面の様子を叙述に基づいて、想像して読む能力を育成できると考える。また、斎藤隆介作品をシリーズ読みすることを通して、斎藤隆介作品の主題にも迫りたい。

登場人物の人物像や心情や心情の変化をとらえさせるために、登場人物ごとに心情が読み取れる叙述を付箋に書き抜き、場面ごとにまとめる活動をして、自分の考えをもたせる。また、小グループでの交流を通して、登場人物の心情の変化や豆太とモチモチの木の関係の昼と夜の違いについて捉えさせた後、再考させ自分の考えを深めさせる。さらに本時では、斎藤隆介作品の登場人物の人物像や中心人物の心情の変化、主題を読み取らせた後、モチモチの木の中心人物である「豆太」と比較したり主題を比較したりすることを通して、物語をシリーズで読み、中心人物の心情の変化をとらえる中で、作品の価値や本質に迫ろうとする力を育成したい。

音読では、叙述をから読み取ったことや感じたことを基に工夫を考えさせる。その際、声の大きさや高さ、速さ、間等の読み方を工夫するための視点を提示することで、一人一人が主体的に工夫しやすくする。また、読書座談会と題して、斎藤隆介シリーズの他の作品の音読を聞くことを通してシリーズを通じての主題にも迫りたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 自分が選んだ物語の感動を、音読を工夫しながら表現しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や心情、心情の変化を叙述を基に想像して読み、読み取ったことを音読で表現している。(読むこと)

2 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	「モチモチの木」に興味をもち、斎藤隆介シリーズの物語を読もうとしている。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格を会話や行動に着目して、叙述を基に想像して読んでいる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、紹介している。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、課題解決のために、物語の感動を音読で伝える活動を通して、登場人物の性格や心情、心情の変化を叙述を根拠に想像しながら読んだり、複数の物語を比較しながら読んだりする思考力（スキル）、読み取ったことを書いたり音読で表現したりする表現力（スキル）を育成することができると考える。

4 指導計画（全10時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>ふりかえり 課題の設定</p> <p>一学期の音読単元の振り返りから、「音読によって物語の感動を伝える」という課題を設定し、学習活動の目的意識をもつ。 学習計画を立てる。(1)</p>	<p>単元のゴールに向かって、どんな学習が必要かを考え、学習計画を立てている。 【関・意・態】(発言)</p>	<p>学習活動のゴールである目的を明確にもち、単元の課題を設定している。 【思考力・表現力】 (行動観察)</p>
	<p>【本質的な問い】音読によって斎藤隆介シリーズの絵本の感動を伝えるためには、どうすればよいのだろう。</p> <p>【学習課題】・物語の感動を音読で伝える方法を学ぼう。 ・斎藤隆介作品の主題に迫ろう。</p>		
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>教材文を読み、初発の感想をもち交流する。(1)</p> <p>登場人物の行動や会話に着目して、豆太とじさまがどんな人物かを読み取る。(2)</p> <p>豆太とモチモチの木との関係や山の神様に対する気持ちについて読み取る。(1)</p> <p>これまでの学習を生かして、プレ読書座談会を行い、読みの工夫について考える。(1)</p> <p>斎藤隆介作品を読み、登場人物の人物像を読み取る。(1) (本時7/10)</p>	<p>物語の内容を正確にとらえ、感想や疑問をもっている。 【関・意・態】(ノート、発言)</p> <p>小グループで話し合いながら、豆太やじさまの行動を表す文や会話文に着目して、語り手の目線からそれぞれの人物像を読み取っている。 【読む】(ノート・発言)</p> <p>豆太とモチモチの木の関係の昼と夜との違いや、山の神様に対する気持ちについて読み取っている。 【読む】(ノート、発言)</p> <p>これまでに読み取ったことを生かして、モチモチの木を音読で工夫して表現している。 【読む】(音読)</p> <p>斎藤隆介作品を読んだ後、小グループでの交流を通して、登場人物の人物像や心情の変化をとらえている。 【読む】(ノート、発言)</p>	<p>叙述から想像を広げたり、自分の思いや考えを言葉や音読で表現したりする力を身に付けている。 【思考力・表現力】 (音読・ノート)</p>
	<p>実行</p> <p>斎藤隆介作品で読書座談会を行い、物語の感動や感想を伝え合う。(2)</p>	<p>自分が読み取った人物像や物語の感動を音読の工夫により表現している。自分が選んだ物語と「モチモチの木」を比べて考えている。 【読む】(音読)</p>	
	<p>ふりかえり</p> <p>読み取ったことを音読で表現する方法やコツをまとめる。 斎藤隆介作品について振り返る。(1)</p>	<p>物語を音読により表現することや斎藤隆介作品の世界について振り返っている。 【関・意・態】(行動観察)</p>	

5 本時の展開 (7/10)

(1) 本時の目標

自分が選んだ斎藤隆介作品を読み、叙述を基に、登場人物の人物像や心情の変化、中心人物の人物像や主題を読み取り、モチモチの木と比較しながら考えることができる。【読む】

(2) 観点別評価規準

自分が選んだ中心人物の人物像や心情の変化、主題について、場面の移り変わりに注意しながら行動や会話などの叙述を基に読み取ったり、モチモチの木と比較しながら考え音読で表現したりしている。【読む】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの読み取りを振り返り、本時のめあてをたてる。 ルーブリックを提示することにより、学習の見通しをもたせやすくする。 	
モチモチの木とくらべながら、斎藤隆介シリーズを読もう。		
<p>2 個人で読み取った登場人物の心情や心情の変化、場面の様子について小グループで話し合う。 (グループ→全体)</p> <p>3 モチモチの木と比較して考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中心人物の人物像や心情の変化について、グループ交流を通じて深める。 ◆ 各グループで話し合ったり、考えを付け加えたりしやすくするために付箋を用いて話し合わせる。 作者の伝えたいこと(物語の主題)をとらえさせる。 自分が選んだ物語と「モチモチの木」の豆太の人物像や主題と比較して考える。 自分が選んだ物語の中心人物に対する自分の考えをもつ。 ◆ 豆太の人物像について読み取った際のワークシートと同じ形式のワークシートを用いることにより人物像の共通点に気づきやすくする。 	<p>○ 場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基に登場人物の人物像や心情の変化を読み取っている。 【読む】 (ワークシート)</p>
<p>4 お気に入りの場面を選んで音読をする。</p> <p>5 まとめと振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことをもとに、音読の工夫について考え、本文に書き込む。 登場人物の心情や場面の様子が伝わるように音読練習をする。 モチモチの木と比較しながらまとめたり、ルーブリックに沿って振り返ったりすることにより、自分が身に付けた力を自覚し学習意欲につなげる。 シリーズを通した主題にも気付かせる。 	<p>○ 読み取ったことをもとに、音読の工夫をする。 【読む】(音読・ワークシート)</p>